

新分野展開の推進を

建設業適正取引講習会

県建設業連等

県建設業団体連合会
川畑俊彦会長・建設業
適正取引推進機構は1日、
鹿兒島市の鹿兒島サンロ

イヤルホテルで15年度
「建設業の適正取引に
関する講習会」を開き、
建設業再生へ向けた取り組
みについて、さまざまな
角度から学んだ。

会には、業界関連の経
営者や担当者らが多数参
加。川畑会長は「建設投
資の大幅な縮小により、
業界を取り巻く環境が厳
しくなっていることは事
実。市場競争が激化して
いく中で、今後は適正な
発注・受注を推進してい
かなければならない。こ
の講習を意義あるものに
していただきたい」と挨拶
した。

講義では、初めに宮崎
紀男同機構相談指導部長
が「入札談合と独占禁止
法」について解説。最近
の独占禁止法違反や入札
談合事件など、全国各地
における事例を踏まえて



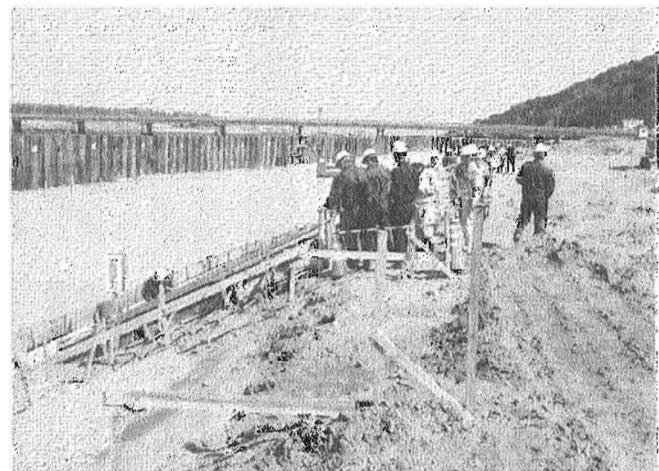
建設業再生の取り組みを学んだ講習会
＝鹿兒島市の鹿兒島サンロイヤルホテルで

説明した。

また、津曲幹雄国土交
通省九州地方整備局建政
部建設業調整官は「建
設業をめぐる最近の話題」
について講演。地方圏で
は、建設業及び建設関連
従事者は全業者の2割
以上を占め、社会資本整
備の担い手として欠くこ
とのできない存在である
が、公共事業縮減に伴い
経営環境は急速に悪化し
淘汰・再編が避けられな
い状況下にあるとした。

再編に向けては、コスト
管理の徹底や新規分野へ
の展開、企業間連携の推
進などを基本とした取り
組みの推進が必要であると
述べた。

また施工体制の適正化
へ向けた工事における安
全管理についても講義が
なされ、多くの参加者ら
は今後の業界動向や再編
へ向けての施策などにつ
いて真剣に学んだ。



護岸改修の作業状況など診断したパトロール
＝高山町の現場で

大隅河川国道安全対策協パト

抜き打ちながらも良好

九州地方整備局大隅河
川国道事務所(酒谷幸彦
所長)の安全対策連絡協
議会と事務所桜島砂防工
事安全対策連絡協議会は
2月26日、肝属郡高山町

等の事務所発注工事現場
内の安全パトロールを実
施した。
パトロールは昨年10月
に続き2回目。今回は、
管内の現場24カ所を4班

に分けて、鹿屋労働基準
監督署や受注者代表ら33
人が参加した。点検内容
は、安全点検教育の項目、
施工体系図、安全衛生組
織図など一般事項や墜落
防止、足場、支保工、建
設機械関係、治山掘削作
業などについて実施され
た。

安全パトロールは、同
事務所が年間140件程
度発注している現場の中
から抜き打ちで実施。結
果はどの現場も良好だっ
た。また各現場で指摘・
指導も行われさらなる安
全対策を確認し、今後も
工夫したパトロールを実
施する。

取り組んでいきたい」と
述べ、最後に全員で記念
撮影して、外灯設置を祝
った。

歴史資料センター輝津館が完成

坊津町

坊津の歴史的価値実感

が同町坊にこのほど完成
1日に関係者ら約120
人が出席して、完成式典
を開き、完成を祝った。
オープンは3日。

同館は、坊津町が唐国
(現・中国)との貿易交
流を通じて栄えた町であ
り、当時を語る上で多く
残存している歴史的にも
価値の高い文化遺産の数
々を後世に語り継ぐため
建設された。建物規模は、
RC造2階建て、1668
2・51平方メートル、主に歴
史展示室(325㎡)、
民俗展示室(224・9
㎡)、交流展示室(42・
8㎡)、収蔵展示室(62



感謝状授与も行われた完成式典
＝坊津町の現地で

総工費は7億8976万
5000円を費やした。

当日は、谷上幸男町長
はじめ関係者らによって
はじめて関係者らによつて
行われた。冒頭、谷上
町長が「同館が完成した
ことで、訪れる方々に坊
津が歴史的価値の高い町
であることを、改めて感
じていただきたい」と挨拶
した。工事経過報告の後に
工事参加者らへの感謝
状授与と、宮路和明衆議
院議員、坊津町長ら来賓が
祝辞を寄せた。また、午
後からは祝賀会が開かれ
出席者全員で同館の完成
を祝った。

なお、設計・監理を(株)
東条設計、本体施工を大
成建設(株)、展示物施工を
(株)丹波建設がそれぞれ担

松陽台に風力発電外灯

環境共生のシンボルに

県住宅供給公社

職員など約40人が出席。
福重会長、曾山幸一同ク
ラブ幹事、加治屋敏行同
会計、牛之濱理事長、梶
原知治同公社専務、窪田
義次専務、施工者代表
(青木建設・渡辺組・久
保工務店・西郷組JV)
の橋本博現場事務所長ら
が合同に合わせ力強く序
幕を行った。

続いて、牛之濱理事長
が同クラブの福重会長に
感謝状を手渡した後、坂
本建部同公社専務が同

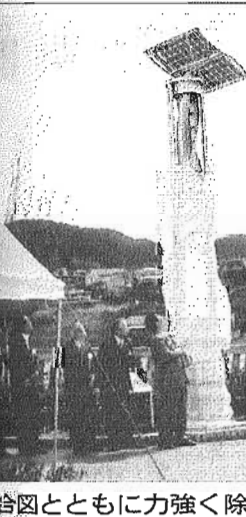
引き続き、牛之濱理事長が
「このような立派な最新
型の環境共生タイプの外
灯を設置することができ
ています。今後も地域に
密着した社会奉仕に努め
環境問題などに積極的に
取り組んでいきたい」と
述べ、最後に全員で記念
撮影して、外灯設置を祝
った。

ハイブリッドタワーの
特長は、環境にやさしい
自然エネルギーの活用に
より、高循環型社会を形
成するためのエネルギー
として「安心・安全・快
適な住みやすい街づくり」
に貢献し、風力と太陽光
エネルギー採用によりCO₂
の排出がなく、ザボ
ニウス風車採用で低騒音
と高い安全性を確保する。
同外灯は16年1月に発売
され、発電能力は太陽光
発電が定格出力168ワ
(光のエネルギーを電気
エネルギーに変換して電
気をつくる)、風力発電
が同30ワ(風のエネルギ
ーで発電機を回し電気を
つくる)、照明時間の目
安は20ワで約11時間点灯
する。

松陽台に風力等発電外灯
環境共生のシンボルに
県住宅供給公社

県議会離島振興議員連
盟と県離島振興協議会は
このほど、奄美群島開発
特別措置法の改正・延長
や離島航空路線網等の整
備促進など6項目を国や
関係省庁に要望した。う
ち、離島航空路線の維持
・充実については離島空
路整備法(仮称)を制定
し、運航費補助制度の継
続・拡充、離島航空路に
係る地方公共団体の財政
負担に対する地方交付税
による財源措置などを盛
り込み、特設の配慮を要

法など要望



台図とともに力強く除幕を行う関係者ら
＝松元町の現地で